

鷹揚郷新聞

第20号 2019年11月発行 施設訪問特集

紅葉の岩木山 2019年10月28日撮影



施設訪問 2019年

10月29日(火)に小沢小学校3年生の児童が、当院を訪れてくれました。昨年はインフルエンザの流行時期と重なり、残念ながら子供たちの歌声を聞くことはできませんでした。もう何回目の訪問となるのでしょうか？調べると2002年9月が最初だったようです。それ以降、諸事情により中止の年もありますが、毎年秋の恒例行事となっております。

子供たちの歌あり、踊りあり。ふれあいの時間には、子供からの手作りのメッセージカードをもらい、肩をたたいてもらったり、手遊びで笑いあうなど、盛りだくさんの内容でした。

このような心安らぐ場を体験したことで、患者さんも職員も明日への元気がもらえました。3年生のみんな、ありがとうございます！！



出番はまだかな



子供たちの晴れ舞台



最後まで手を振って



患者さんも笑顔



理事長も笑顔

一生懸命練習した様子が伝わってきます。楽しいひと時を過ごすことができました。来年も楽しみにしています(^^♪。

患者友の会より

◎根付け作りご案内

女性部主催で、来年の干支「子」の根付けを作ります。また、外出先や自宅で転ばない様、「ダルマ」も一緒に作ってみませんか？



日時： 11月24日(日)10:30～

場所： 弘前市『ヒロロ』3階参画センター

会費： 1体につき150円 何体でも可

参加希望者は、女性部長 菊池ユキ子さん迄

第2透析室(2階)火木土 午前の部

☎ 090-9638-6699 迄 **締切 11月17日**です。

◎「透析患者の送迎について」

患者さんは誰でも「もし自分が自家用車で通院が出来なくなる日が来たら、どうしようか」という不安を抱えています。送迎バス・介護保険も利用できない人はどうしたらよいのでしょうか。

12月の市議会本会議に於いて、ある市議会議員の方が質問状を提出して下さることになりました。

「透析患者の送迎について」是非注目してみましよう！

鷹揚郷弘前病院患者友の会 会長 蒔苗 和雄

ワンポイントアドバイス

今回は、放射線科より、**尿路結石症と結石治療**についてのお話です。

尿路結石症が発症する**原因**は、「**食事の欧米化**」や**生活習慣が強く関連している**と考えられており、**結石ができる**と再発しやすく、**5年に一回は再発する**と言われています。



続いて、尿路結石症に対する**治療法**をお話します。

尿路結石を治療し体外に排石出来るレベルにまで砕くことを**破碎**と呼びます。破碎の方法には内視鏡という細い管状のカメラを尿道から入れて、**レーザーを用いて直接結石を砕くTUL**と呼ばれる方法と、超音波の一種である**衝撃波を用いて結石を破碎するESWL**という方法があります。**ESWLの治療**は、衝撃波を結石表面から徐々に崩しつつ排石を促していく治療です。結石の密度によりませんが、1回で砕けるということは少ない反面、レーザーに比べて痛みや合併症も少なく、比較的**安全な治療方法**と言えます。TULに比べ**施行回数が多くなりますが、麻酔を使用せずに日帰りで施行できる**というメリットがあります。ただし、**治療効率がTULに比べて低く、結石が粘膜に埋もれている状態**ですと、**効果が期待できない**というデメリットがあります。

ここで、ESWL治療に携わる者からの**ワンポイントアドバイス**！

- 1、尿流がある状態で施行すると**衝撃波が結石に伝わりやすい**ので、**なるべく水分を多めに**取りましょう。
- 2、治療中は一定の呼吸を保つため、なるべく**リラックスして安静に**していきましょう。
- 3、3回以上治療を受けて、**明らかな効果を認めない**場合は、**TULへの移行を考えて**みましょう。

以上となります。ご不明な点がございましたら、気兼ねなく医療スタッフ迄お問い合わせください。

弘前バスキュラーアクセス勉強会

日時：2019年10月19日(土)15:00～

場所：当院 3階講堂 座長：当院長 齋藤久夫

講師：シャントクリニック仙台東院長：後藤靖夫 先生

テーマ：バスキュラーアクセスのIVR治療について



リレー寄稿



こんにちは。

2病棟看護師の外崎朝美です。近年、自然災害のニュースを目にすることが多くなりました。みなさんは災害に備えて行っていることはありますか？

今回は、**私も所属する身近なボランティア、消防団**について紹介します！

消防団は各市町村に設置されている消防機関です。消防署と協力して、**火災をはじめとした各種災害に対応**しています。団員はそれぞれ**自分の仕事や学業を持ちながら、自分たちの街を守るため日々活動**しています。また、消防団員は特別職の地方公務員として、必要な**装備が貸与**されるほか、様々な**補償や手当支給**について法律で定められています。

消防団という**男性のイメージ**があるかと思いますが、**消防団員数が減少**する一方で、**女性消防団員数は年々増加**しています。消防団の組織の活性化や、**地域のニーズ**に応える方策として、**女性消防団員を採用しよう**という動きも全国的に広まっています。

弘前市消防団**女性分団の活動**としては、消防職員とともに主に**中・高・大学生を対象に心肺蘇生法・AED(自動体外式除細動器)の使用**方法などの指導を行うほか、**保育園・幼稚園及び小学校**を対象として**防火教室を開催**しています。その他にも各種イベントへの参加や、**県内外の消防団員との交流**の場もあります。様々な人と**出会う機会**が多く、とても**刺激**になります。これからも**楽しみながら、活動を続けて**いきたいと思えます。

今回は、同期で新婚の第2透析室看護師である我満みさんにバトンを渡します。

【編集後記】11月7日頃は立冬です。寒さが深まり、冷たい風に落ち葉が舞う季節。虫や動物たちが冬眠に入るのもこの頃だそう。本格的な冬がやってくる前に私達も冬支度を始めましょうか。発行：鷹揚郷 広報部